

< 生涯にわたる学び >

小学校以降の教育

知識や技能の基礎

思考力・判断力・表現力等の基礎

【文部科学省】 学びに向かう力・人間性等
 (【本協議会】「学びに向かう力」)

- ・ 本協議会において、「学びに向かう力」は、人間性等を含めて捉えています。
- ・ 「学びに向かう力」は、個別に取り出して身に付けさせるものではなく、遊びや生活を通しての総合的な指導を行う中で、「知識や技能の基礎」や「思考力・判断力・表現力等の基礎」と一体的に育てていくことが重要です。
- ・ 幼児期に「知識や技能の基礎」を育むとは、一方的に教え込むのではなく、遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、幼児自身が感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになっていくことです。

幼児教育

遊びや生活を通しての総合的な指導

「学びに向かう力」を育むための手立て

- ・ 「学びに向かう力」を育むためには、幼児が夢中になって遊びを楽しむ中で、失敗や困難を乗り越えたり、人やもの等との関わりを広げたりするなどの経験を重ねていくことが大切です。保育者は、幼児の遊びが充実し、自己を発揮したり、仲間と協調したりできる環境を整え、援助をしていきましょう。
- ・ 親子の対話や遊びで、幼児の「学びに向かう力」を効果的に育むことが期待されています。そのためには、幼児の育ちについて、園と保護者との情報交換の機会を設けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたりするなど、家庭との連携を充実させていきましょう。

幼児が自ら関わりたいくなるような環境の構成

幼児が興味や関心を持ち自分から関わったり、仲間と協調して遊んだりするなど、したいことがすぐに実現できるような、もの・場・状況等を整えて、環境を構成しましょう。そして、幼児がその思いを更に持続させながら取り組めるような環境の再構成を幼児と共にいきましょう。



関わり方や言葉掛けなどの工夫

幼児の姿から「学びに向かう力」を丁寧に読み取り、幼児一人一人の育ちや課題への理解を深めるとともに、関わり方や言葉掛けなどを工夫して、幼児が伸び伸びと自己を発揮できるように援助していきましょう。



家庭や地域との連携や支援

家庭や地域との連携を図り、幼児の育ちについて保護者と共通理解するとともに、家庭生活において、幼児との対話や様々な遊びを楽しむような助言や情報を伝えていきましょう。



生涯にわたる学びを支える幼児教育の在り方 —幼児期における「学びに向かう力」の育成を通して—

今、幼児期に、感情や行動のコントロール、粘り強さ等を育むことの大切さが注目されています。これらを幼児期に十分に育むことが、小学校以降の主体的に学ぶ姿勢や多様化した社会を生き抜いていく力につながると考えます。

本研究協議会では、遊びや生活の中で、

- ・ 自分の気持ちを調整する力
 - ・ 粘り強く取り組んだり挑戦したりする力
 - ・ 仲間と協調する力
- などを育むことが大切であると考え、これらを「学びに向かう力」と捉えました。本リーフレットでは、この「学びに向かう力」を幼児期に十分に育むためには、幼児はどのような経験を積み重ねていくとよいのか、そして、保育者は幼児にどのように関わっていくとよいのかについて提案していきます。



海賊ごっこをしていた幼児。双眼鏡をのぞきながら「サメが来た」と言った声がかっけとなり、サメになりきって海賊船に向かっていく幼児も現れました。そして、「大きなサメを作ろう」「強いサメにしようよ」と、イメージを伝え合いながら、仲間と協力してサメを描き始めました。

「学びに向かう力」とは…

「学びに向かう力」は、幼児が環境との関わりを通して、下記に示すような心情・意欲・態度などを身に付けていくことで育まれていきます。

保育者は、幼児一人一人の発達や課題を踏まえて、幼児の姿から、「学びに向かう力」の基となる心情・意欲・態度などを意識して読み取っていきましょう。

自分の気持ちを調整する力

自分の気持ちを十分に伝えたり、相手の気持ちや意見を聞いたりして、自分の気持ちを調整していく力です。

この力を育むには、自分は受け止められているという確かな思いを土台にして、友達と互いに思いを主張し合う中で気持ちの折り合いを付けながら遊ぶ体験が大切です。

- ・安心感、安定した情緒
- ・葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・相手の気持ちの受容 など



「大きくなったね」「もっといっぱい掘ろうよ」と、大好きな友達と安心して遊びます。

粘り強く取り組んだり挑戦したりする力

興味や関心を持って、「やってみたい」「やり遂げたい」と思ったことなどに、粘り強く取り組んだり挑戦したりする力です。

この力を育むには、意欲を持って積極的に周囲の環境に関わり、失敗や困難を乗り越え、やり遂げた充実感や満足感を感じる体験が大切です。

- ・好奇心、探究心
- ・粘り強さ、集中力
- ・充実感、満足感
- ・自然現象や社会現象への関心
- ・色、形、音等の美しさや面白さに対する感覚 など



こま回し。「よし、もう一度」「見て、回った」「次は、ほくがやるよ」と、諦めずに粘り強く取り組みます。

仲間と協調する力

仲間を信頼し関わりを深め、共に活動する中で共通の目的が生まれて協力し合うなど、仲間と協調する力です。

この力を育むには、話し合っって考えを生み出したり、役割を持って行動したりするなど、仲間と協力して取り組む体験が大切です。

- ・思いやり、親しみ、信頼感
- ・話し合い、目的の共有、協力 など



仲間と相談して始めたケーキ屋さん。「いらっしゃいませ。どれがいいですか」「こちらがレジです」と、協力してお客さんを迎えます。

幼児の姿から経験していることを読み取ると…

【事例】5歳児6月「ザリガニの池を作ろう」

・A児たちは大好きなザリガニを水槽の中で大切に育ててきた。

①ある日、A児が「大きくなったからこんなに狭いところじゃあ、かわいそうだね。よし、本物みたいなザリガニの池を作ろう」と言い、B児と一緒に園庭の隅に穴を掘って池を作り始めた。

・園庭の隅の土は粘土質で、思うように掘れない。

②「あっ、そうだ」と言ったB児が、バケツで運んできた水を穴に入れて土を湿らせた。A児とB児は、軟らかくなった土を15センチほど掘ったところでザリガニを入れてみた。

・元気なザリガニは、この程度ではすぐにはい出してしまふ。

③A児とB児は「もっともっと深く掘らなくちゃ」と言って、穴を掘り続けた。

・頑張って掘ってみたが、この日は片付けの時間になってしまった。

④二人は「明日もやろうね」と言って、片付けを始めた。

⑤次の日、登園と同時にC児が加わって池を更に深くしようと掘り始めた。三人で掘り続け、穴の深さが30センチほどになったときに「よし、水を入れてみよう」と穴に水を入れた。

・穴に入れた水は、しばらくすると染み込んでしまった。

⑥しばらく考えていたA児が「そうだ、先生、ビニル袋をちょうだい」と言い、掘った穴に大判のポリ袋を敷き、その上から土をかけて固めた。そして、そこへ水を入れてみた。

・水は染み込まないで、たまっていった。

⑦A児は、できた池に再びザリガニを入れ、はい出てこないのを見て「なんだか、ザリガニくん喜んでるみたいだね」とつぶやいた。B児とC児は「うん」と答え、笑顔でザリガニを見ていた。



「学びに向かう力」の基となる心情・意欲・態度などの読み取り

①ザリガニが喜ぶ池を友達と一緒に作りたいという**目的の共有**。

②以前経験したことを思い出して、水を入れて試してみようとする**自然現象への関心**。

③もっともっと深く掘ろうとする**粘り強さ**。力を合わせて行う仲間との**協力**。

④明日への見通しを持つ**目的の共有**。

⑤A児・B児がC児を受け入れた**相手の受容**。C児も加わり目的を達成しようとする**協力**。更に深くしようと掘り続けた**粘り強さ**。

⑥ビニル袋の材質に気付き、試そうとする**探究心**。自分の考えを聞いてくれたり、頼ったりできる保育者がいるという**安心感**。

⑦ザリガニの気持ちになって考えるという**思いやり**。ザリガニの池がうまくできた喜びからくる**充実感、満足感**。

「学びに向かう力」を育む保育者の援助

○ **環境を整える。**

幼児がザリガニのために池作りに取り組もうとする気持ちを受け止め、仲間と共にやり遂げようとする意欲が持続するように、道具を準備したり、次の日も続けられる時間を確保したりした。

○ **一人一人の発達の課題に応じた援助をする。**

幼児は、経験を通して得てきた知識や思考力等を生かして、土を軟らかくしたり、ビニル袋を使ったりして、活動を続けていた。一人一人が経験していることを理解し、任せたり、励ましたり、手伝ったりするなど、幼児たちが安心して自己を発揮できるように関わった。